

2017.11.04 ダラス補習授業校研修会

AG5

在外教育施設の
高度グローバル人材育成拠点事業

5つのプロジェクト

1

日本人学校
グローバル
資質形成

2

日本人学校
日本語教育
プログラム

3

日本人学校
学校採用教員
指導力向上

4

補習授業校
日本語向上
プログラム

5

日本文化
発信拠点
形成

チーム4

研究提携校

ダラス補習校

日本語力のちがい

駐在型 + 永住型

プロジェクト4の展開

学習活動の事例

学年内で複数の事例

他学年へのひろがり

補習校間の協力

国内校等との協力

ネットワーク

リソース

研究テーマ4 補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発

◎プログラム開発チーム（チーム4）

渋谷 真樹 奈良教育大学教授（教育社会学、IBカリキュラム）*

佐々 信行 海外子女教育振興財団教育相談員（海外・帰国子女教育）

岡村 郁子 首都大学東京准教授（日本語教育、異文化間教育）

雨宮 真一 東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭（英語教育、海外・帰国子女教育）

今澤 悌 甲府市立大國小学校教諭（日本語教育）

近田由紀子 文部科学省国際教育課（帰国・外国人児童生徒等教育）

高橋時市郎 東京電機大学教授（IT教育工学）*

（* 本日欠席）

AG 5



在外教育施設の高度グローバル人材
育成拠点事業
@ダラス補習授業校

2017.11.04

共に育てるグローバルな能力

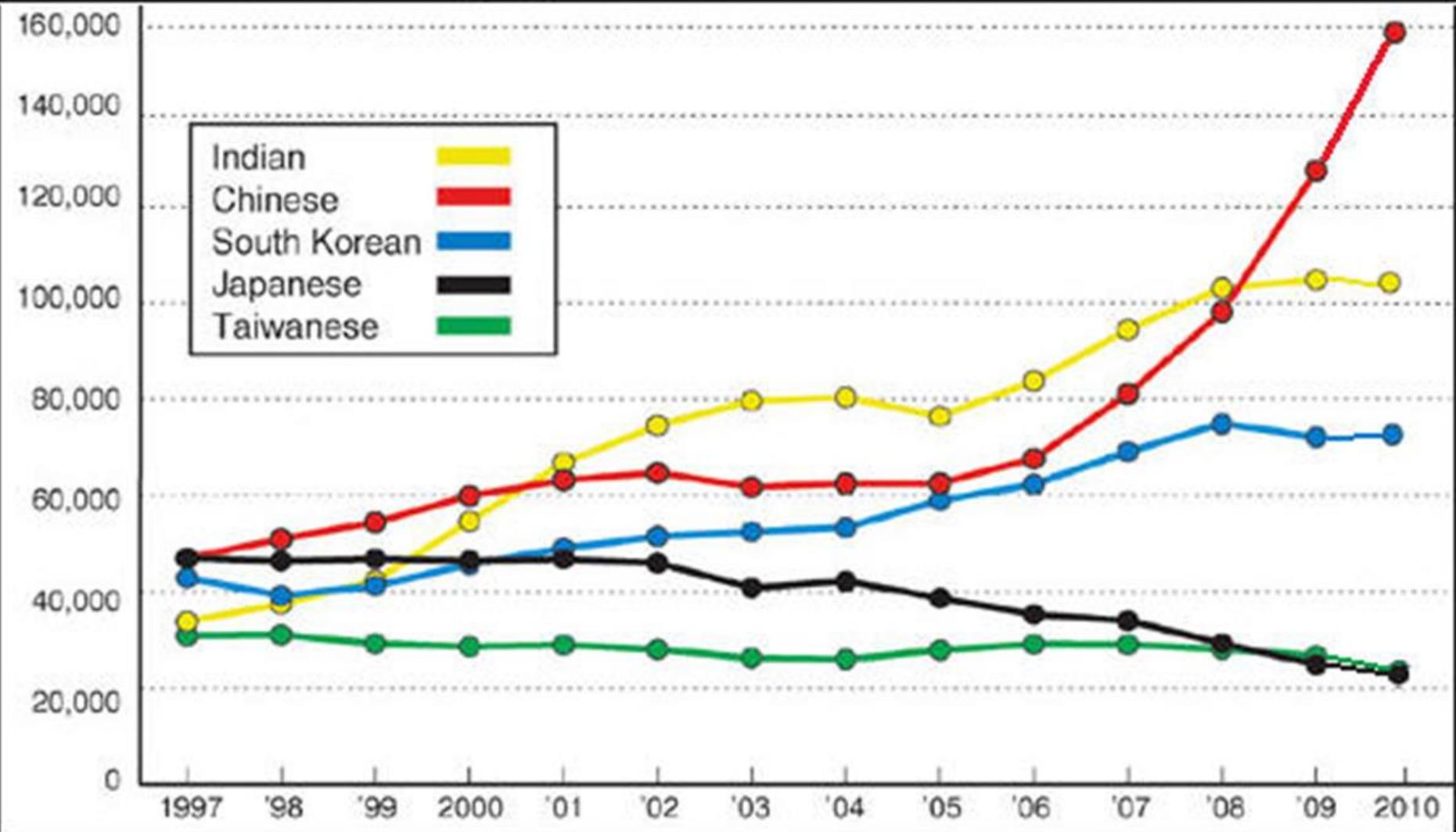


AG5プロジェクト

岡村 郁子

首都大学東京 国際センター

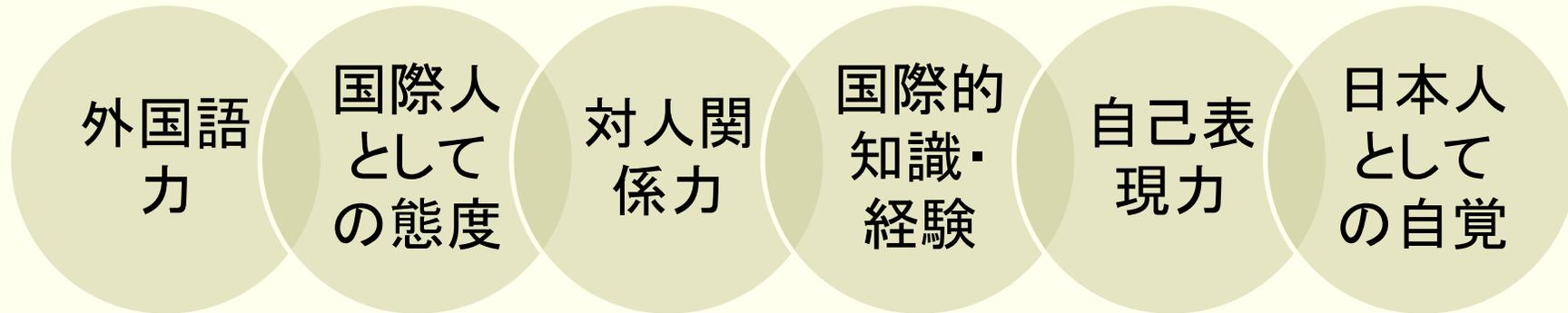
Asian students studying in the United States



INSTITUTE OF INTERNATIONAL EDUCATION, "OPEN DOORS"

帰国高校生が身につけた 「グローバルな能力」とは？（岡村 2013）

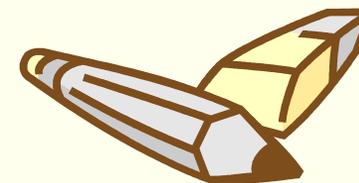
【2年以上の海外在住経験のある**高校生487名**を対象にした質問紙調査の結果】



英語圏に長期（5年以上）滞在
現地校やインターナショナルスクールに在籍
帰国生受入れに配慮がある学校への受入れ
帰国経験への肯定度が高い
在籍校や家庭からのサポートがある

「グローバルな能力」を、より強く自覚する傾向

学習指導要領の改訂



小学校では2020年度～、中学校では2021年度～
学校が社会と連携・協働する「**社会に開かれた教育課程**」

【3つのキーワード】

1. 「**資質・能力**」＝「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるのか」
2. 「**カリキュラム・マネジメント**」＝教科横断的な視点、子供や地域の現状にあわせて改善し続けること、外部の資源を効果的に活用すること
3. 「**主体的・対話的で深い学び**」＝「**アクティブ・ラーニング**」の視点で、新しい時代に求められる資質・能力を育成

「**学びの質**」を重視する新学習指導要領

グローバル人材獲得を目指す大学入試

- ◆多くの大学で「グローバル」関連の入試制度を新設
 - GTEC, IELTS, TOEFL, 英検, TEAPなど、
「4技能を測る英語試験」のスコアを使ったAO入試
- ◆大学入試センター試験を廃止「大学入学共通テスト」を開始
2020年度～
 - 数学・国語で記述式問題を導入
 - 英語は4技能を評価する民間の試験を活用
(2023年度までは共通テストと民間試験併用)



英語のできる帰国生に 有利な入試改革

ご一緒に補習校を盛り上げていきましょう！
これからどうぞよろしく願いいたします。



ご質問などあれば、お気軽にご連絡ください。
iokamura@tmu.ac.jp

A view from an airplane window showing the wing and a blue sky with scattered clouds. The wing is visible in the lower-left corner, extending towards the center. The sky is a deep blue with wispy white clouds scattered throughout. The text "AG 5" is overlaid in the center in a large, white, sans-serif font.

AG 5

主体的・対話的で深い学び

アクティブラーニング

伝統的な、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称

(2012年中央教育審議会答申

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて

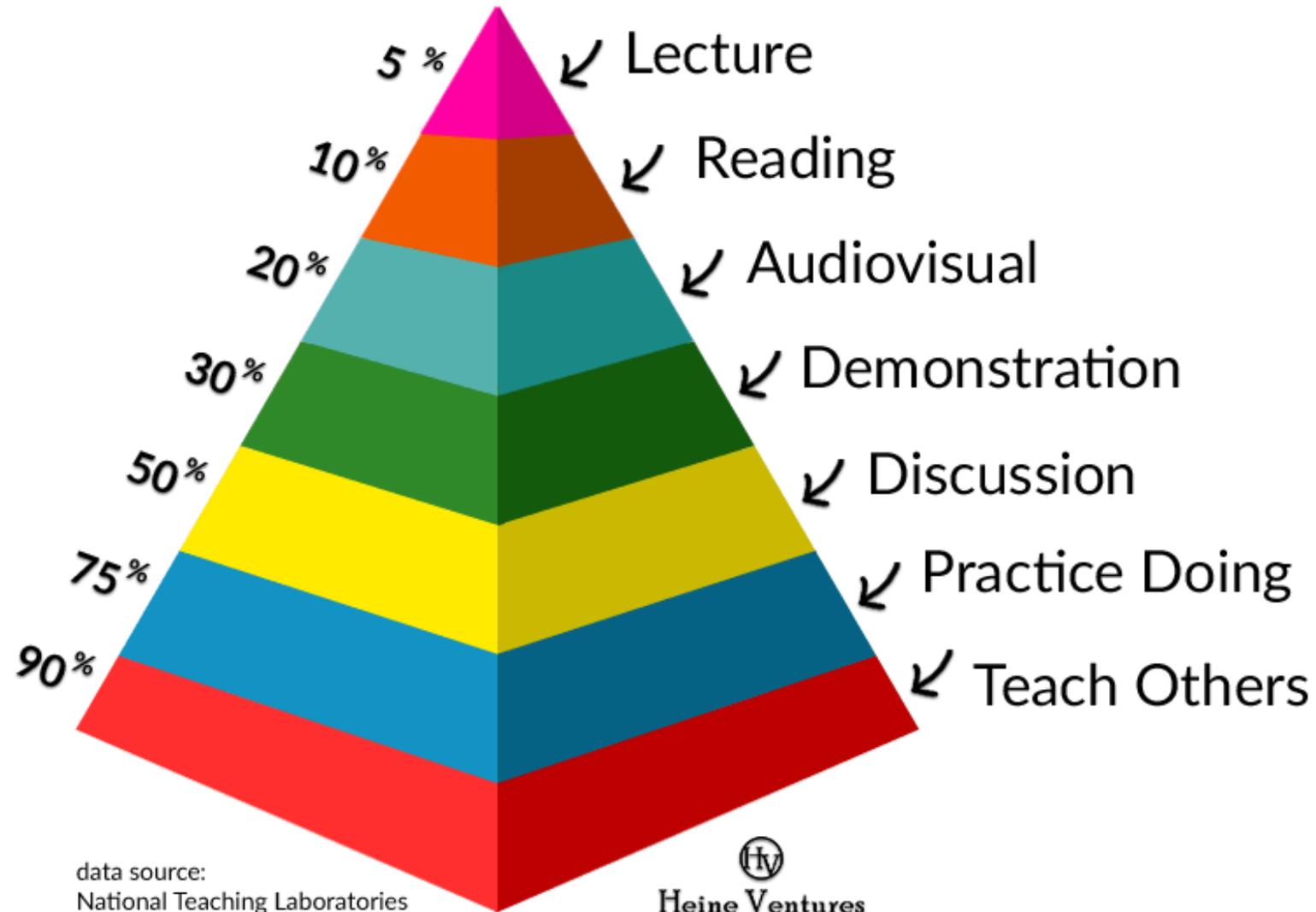
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」より)

例えば、

発見学習、問題解決学習、体験学習、
調査学習および教室内の
グループディスカッション、ディベート、
グループワークなど

THE LEARNING PYRAMID

average student retention rates



● Think-Pair-Share

自分で考える

→隣の人と意見交換する

→全体で考える

● ピアインストラクション

仲間になった者同士で教え合う

(記述、解答の根拠やプロセス)

- 言い換え

学習した内容やテキストから自分が理解したことから自分の言葉を使って説明する

- 問づくり

学習した内容やテキストから問を作って互いに問答しあう

● ジグソー法

1. 出された問いに個人で答えを考える
2. いくつかのグループに分かれ、グループごとに担当する資料を読み、理解する。それぞれが自分が読んだ資料について詳しくなる。
3. すべての資料の担当者がそろってグループを作り、説明しあい、様々な視点から問を考える
4. 個人に戻り、問の答えを考える

AG 5



「 在日外国児童への日本語指導の実践から 」

～ 「教科と日本語の統合学習」 ～

文部科学省
「学校教育における
JSLカリキュラム開発」

山梨県 甲府市立 大国(おおくに)小学校
教諭 今澤 悌(やすし)
yasushi-imazawa@kofu-ymn.ed.jp
y-now@mx5.nns.ne.jp

日常会話は問題ないのに、
授業について行けない・・・

学習言語のかべ

授業参加は無理だな・・・

**認知的な力、思考力等を身につけ
られずに成長することに・・・**

学習言語の向上が望まれる・・・

**学習言語の習得を目指して、文部科学省は
JSLカリキュラム（教科と日本語の統合学習）の開発へ！**

「教科と日本語の統合学習」でつけていく 教科の力と 日本語の力

理科：「電池の力でモーターを回そう」の単元の場合・・・

どんな力をつけようか

教科の力（理科としての力）

乾電池の向きと電流の向き
の関係を分析・考察する力

- ・ 実験の意味と方法がわかる。
 - ・ 結果から何が分かるか考えられる。
- （分析・考察する力）

教科の「活動、学び、理解、を
支えることば」は・・・

教科の目標を達成するために
必要なことばの力

日本語の力

実験と考察に必要なことば（語彙や表現）

- ・ 実験に使うものの名前がわかる。
- ・ 「～すると～になる」の文型を使って、結果を言える。
- ・ 「～だから～です」の文型を使って、理由をつけて自分の考えを言える。

A view from an airplane window showing the wing and a blue sky with scattered clouds. The wing is visible in the lower-left corner, extending towards the center. The sky is a deep blue with wispy white clouds scattered throughout. The text "AG 5" is overlaid in the center in a large, white, sans-serif font.

AG 5

つぎは、

デジタル教科書

のご紹介です。